

令和3年度 第1回昭和村総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和3年7月6日（火）

開会時間 午後2時30分

閉会時間 午後3時52分

2. 場 所 昭和村公民館2階研修室

3. 出席委員 舟木幸一 村長
安藤哲朗 教育長
齊藤加津代 教育長職務代理者
本名敬 教育委員
栗城照美 教育委員
五十嵐麻裕子 教育委員

4. 事務局 本名千代 教育委員会教育次長兼公民館長

5. 協議事項

- (1) 教育大綱の変更について
- (2) 令和3年度教育委員会施策基本計画について
- (3) 児童生徒の教育環境について

6. 会議概要

- (1) 教育大綱の変更について

原案の通り異議なし。

【変更箇所】

○上から3段落目

「昭和村の教育を充実させ、より魅力あるものにすることで、「昭和村で子どもを育てたい」と定住・移住する若者が増えるよう取り組みます。」を追加。

…100年後も昭和村が昭和村であるために、教育も村の特色の一つとして捉えたかったため。

○下から4行目

「関係機関」を追加。

…関係機関の連携なしには実現できないため。

○その他、軽微な修正。

【意見要旨】

本名委員 教育大綱の改定は今回が初めてとなるが、改定時期に対する具体的な

考え方はあるか。

村長

教育大綱には基本理念が示されていることから、多少の文言修正は許容範囲であるとしても、村長が替わる都度、大綱を見直すものではないと考えている。なお、基本計画については、村の上位計画である振興計画を念頭に置きながら、大綱の範囲内で臨機応変に策定されてしかるべきと考える。

(2) 令和3年度教育委員会施策基本計画について 原案の通り異議なし。

【令和3年度計画の特徴】

新たにスタートした第6次昭和村振興計画が目指す将来像「昭和村で『ここちよく』暮らす」を実現するため、教育行政として「特色ある教育システムの構築」と「心地よく子どもを育てられる環境づくり」、「ウェルビーイングの確立」を重点施策に位置付けている。

【意見要旨】

栗城委員

子どもが SNS に振り回されることなく、高い倫理観や自制心を持ってパソコンやタブレットなどを活用することはとても大事だと思う。高い倫理観を持たせることは難しいとは思うが、そこは重点的にやってもらいたい。

教育長

昨年度も中学校で専門の先生をお呼びし、保護者を交えて講習会を行った。また、学校では今、活動体験を非常に重視している。コロナ禍で各種行事を中止する学校が多い中、村の学校では十分な感染対策をとりながら、密を避けて駒止湿原に子どもたちを連れて行ったり、志津倉山に自然学習に出かけたり、宿泊学習で海に行ったりしている。貸し切り状態で自然に触れることができ、子どもたちの自然に対する関心も高まっている。校長先生を中心によくやっていただいている。

五十嵐委員

自分が行かないところでも、学校での活動を通して子どもたちから「こんなところを見てきたんだよ。」という話を聞くことで、逆に大人の方が今度一緒に行ってみたいなと思うような効果はあると思う。子どもたちが体験したことを親に伝えてくれるので、非常にありがたいと思う。

教育長

SNS に取って代わるまでには課題もあるが、少しでも村の良さを生かして実体験や生活体験に基づく勉強ができれば、子どもたちにとって将来大きなベースになると思う。すぐに効果が出るわけではないが、教科書から学ぶだけでなく、実体験に裏付けされたことは後で役に立つと思っている。

村長

学校教育現場だけでなく家庭教育の必要性について、学校と教育委員会が連携し、そこにどう親が向き合っていくのか。その辺の姿勢が大事だと思っている。場合によっては、それが地域の話にもなると、学校教

育を離れて社会教育、生涯学習も含めての大きな枠組みの中で、村全体で子どもをどう育てるかという話に繋がってくると思う。学校教育は基本中の基本かもしれないが、社会教育は今村が置かれている諸々の課題を捉え、それを学習によってどのように解決していくかというところが大きな狙いだと思う。単に生涯学習と捉えると、場合によっては自分の趣味を充足させるために、生涯に渡り学び続ける環境を作るという狭い枠の中で捉えがちだが、生涯学習と社会教育は非常に大事だと思っている。地域の中で社会教育をどう捉えて地域を充実させていくか。そのためには今までの国家資格の社会教育主事ではなく、社会教育士という簡易バージョンで、地域づくりのリーダーのような、仕掛け人みたいな人たちを養成する仕組みもありうる。これから是非、皆さんも教育委員会の委員として、学校教育ばかりではなく社会教育の分野にも心を寄せていただきながら、一緒になって取り組んでいただければ大変ありがたい。

齊藤委員

4ページ中、既存施設の老朽化が進んでいることについて、改修する予算が十分取れない中で、どのような形で優先順位を決めていくのか。

教育次長

学校施設、社会教育施設の長寿命化計画が今年の3月にできあがった。学校施設や公民館外壁が、考えている以上に老朽化が進んだ状態であることが分かったところ。普通の故障であれば大きな金額ではないので、年度途中でも緊急であれば補正予算を取らせていただき修繕することになるのだが、大規模修繕を要するものの中での優先順位は、このまま老朽化が進むと危険なところが一番目になる。後は、その使用頻度や予算の兼ね合いを見ながら順次進めしていく形で考えているところ。

村長

特に学校のような大きな施設あるいは建替となると、何十億という額になり、財政力の乏しい村にあっては補助金や有利な起債を使っても、それなりの負担が出てくるので、これから大変な時期になると思う。

(3) 児童生徒の教育環境について

【教育環境】

村の今年度の児童生徒数は小学校28名、中学校10名。各教室ともに10名未満の人数による学習環境であるため、集団での活動は各学年を合わせて行っている。

2年前、中学校の専門教員に小学校の授業も受け持つてもらえる小中連携の体制を作ったが、昨年度は中学校教員の削減と移動時間などの理由で十分な対応ができず、今年度は1教科で実施している。

このような中、さらに一步踏み込んで小中一貫教育への移行ができるいか検討しており、昨年度保護者への説明を行った。説明会では、好意的に受け止める意見がある一方、小中一貫への否定的な意見もあった。中でも小中一貫になった場合の校舎の使い方が見えない、中学生になって別の校舎で学べると思ったのにまた小学校で学ぶことになるのか、教育環境に不安がある、というような声が聞かれた。

教育委員会としては、今後ますます人口が減少していく中で、子どもたちの教育を

担っていくには小中一貫教育は避けて通れないと考えている。

【意見要旨】

- 村長 小中一貫教育の件については、皆様と合意形成しながら、じっくりじっくり確実にステップアップしていくことが大事だと考えている。
- 本名委員 学校改修の速度、改修費用の積み上げが、新校舎の建設費用をいつの時点で追い越していくのか。小中一貫教育により小学校、中学校いずれかの校舎が使われることになっても、子どもの体格の違いを考慮すれば、どちらにしても大規模改修がついて回る。小・中学校の大規模改修箇所が年々積み重なっていく状況を考えた場合、小中一貫教育を検討するタイミングで、新校舎のパターンを考えることも進め方の一案だと思う。小中一貫教育について、村中の意思が統一されたときに考えても何とか間に合うのではないか。
- 教育次長 鉄筋の建物は耐用年数が80年のこと。小学校はもう半分が過ぎており、屋根や外壁の修繕を続けても、80年経てばいずれ建替や新築を検討せざるを得ないということ。80年経過してからの新築、数年後に小中一貫教育を見越しての新築など様々なパターンが想定されるが、仮に数年後に新築した場合は修繕費用が少なくなるので検討の余地はあると思う。しかし、修繕費用が新築費用をどの時点で逆転するかの試算は、簡単には算出しにくい状況。いずれ40年経過している建物であるため、建替も視野に入るのかと思う。
- 教育長 小学校は建築後41年経っているため建替の時期、大規模改修が必要な時期に来ている。中学校はあと5年以内くらいに大規模改修をしなくてはならない。長寿命化の試算では約7億円ずつぐらいかかる大規模改修となり、ここ5、6年の中で合わせると14、15億円くらいのお金がかかることになる。小中学校とも既に耐震化工事が済んでいるため、今後もし小学校又は中学校に子どもたちが移るということであれば、改めて部屋を抜いたりして、耐震化工事をやり直すことになる。それが無理であれば別なところに増築する選択肢もあるが、いずれにしても近い将来大変なお金がかかる。なお、長寿命化について、改修の場合は国3分の1補助、新築の場合は国2分の1補助。
- 村長 校舎をどうするか、新しく建てるのか、あるいは改修しながらやるのかということも大事だが、それ以前にいかに小中一貫教育の重要性、本当に必要だと皆さん気が思うのか、必要と思うならそのためにはどうしたらよいのかというところまで、掘り下げて意見聴取しながら話をまとめていくことが非常に大事。上意下達的なものではうまくいかないと思う。教育委員会で学校の保護者も交えて、場合によっては村民も交えて世論をどう喚起するか。小中一貫校が必要だと皆さん気が思えるようになったら自然と学校をどうするかという話にもなると思う。今は学校はどこを使うとか、どういうふうに建てたらいいかという段階ではないような気

がする。教育委員会で考えていることをたたき台にして話をしたいと考えている。

五十嵐委員

今年は中学校の書道の先生が小学生を見てくれて、去年は理科の先生が実験を一緒にやっていただいた。授業を受けた小学生のお子さんの親からは、それがきっかけですごく勉強するようになったと言っていたので、このような授業を学校間の移動時間を理由にして、なくしてほしくない。どのように解決していくかと考えると、やっぱり小中学校が一緒になってほしい。小中一緒になって中学校の先生が専門的なことを小学生の子に教えることで、その小学生の子たちの視野がすごく広がっていくというのを経験させてあげたい。そういったところを重視していくと、小中一貫にしていきたいという想いがあるが、具体的にどうしたらよいか悩んでいる。

発達段階を考えれば、小学校と中学校に分けることに意味があるのでないかという話を聞くと、そうだとは思う。一方、小学校までは上の子が下の子の面倒を見たりするが、中学校になると下の子が上を敬うということばかりに重点がいくので、私としては中学生が下の小学生を見ることによって、心の発達、教育にすごく効果があると思っている。中学校を卒業した自分の子が放課後児童クラブで仕事をしている中で、小学生の子を見ていることによってすごく心が安定している。そういう意味では下の子を育てていくというような環境がすごくよいと思う。

例えば金山と三島と昭和が一緒になって、金山に学校を置いてそこに子どもたちが通うとする。中学校を3町村とかで一緒にすることによってもちろん人数が増えて活動内容がすごく広がるとは思うが、やはり移動時間を考えると中学校の部活とか時間も減ってきてしまう。それを考えたらやはり村の中に学校があつた方がいいと思う。

教育長

小学校が隣接した地区で組合立という形態はあるが、こんなに離れた所ではあまりにも通学距離が長くなってしまう。「現実的にまずできないでしょう。」というのが金山、三島の教育長さんの意見。三島の場合は、給食を始め、柳津と連携してやっているため、話に混ざることさえ難しいだろう。金山と一緒にということは考えられなくはないが、やはり冬期間の通学を考えた場合、昭和に学校を作るということにはならないと思う。学校の統合についてはいろいろな課題を抱えている中、さらにそこに二町村が一緒になるということは、非現実的であるとも言われている。オンラインとか交流学習などでの交流は大賛成ということで、できる範囲で交流していきたいということは当然みんな思っている。小学生は交流学習でお互い往き來して共同で授業をやったりしている。

やはり小中一貫にした学校はやって良かったと言っている。中学生が小学生の面倒を見ながら小学生が中学生を尊敬の目で見て、それぞれリーダーシップとフォロワーシップがかみ合って子どもの心の成長に非常によく、より大きな集団で育てることに意義があるということを言って

いる。それから、校長一人の方針の基に小中の教員が協力して全員で子どもたちを見ることのメリットは、小学生が担任と馬が合わなかったり、担任に良いところを見てもらえなかったりすると、子どもにとって本当に悲しい1年間になってしまふところだが、全員の先生が全員の子どもたちを見るという体制を作ることで、子どもたちの心が本当に安定して自分の良さに目覚めて自己肯定感が高まるなどの良さがある。私は実際そのような学校に勤務したことがある。インドの日本人学校は小中で40人ぐらいの一貫校で、今言ったことが全部行われ、その結果学力が上がっただけでなく、問題が多いと言われて日本から来た子達の心がどんどん成長し、こんなに立派になるのかと思うくらい子どもたちが成長していった。実際体験した者としては、小中の先生が力を合わせたら本当にすごい力が出ると思っている。地元に学校を置いて、そして地元の子をみんなで育てるというような状況になっていけたらと思っているので、一貫校はとても良い構想だと思っている。小さな町村が生き残り、学校を起点に村づくりを進めるという点では本当に良いかなと思う。もし学校が金山とか三島になった場合、郷土学習をする時はみんなで金山の勉強をしたり、三島の勉強をしたり、それも良いとは思うが、やはりその町村の良さを生かした教育というと、やはり地元に学校を残した方が良いと強く思う。

村長

是非ともこの話は、一步でも半歩でも3分の1歩でも前に進むように時間をかけながら、教育委員会の最大のテーマの一つとして話をしていただきたいと思う。後はできればPTA保護者会などでもその機運が大事だから、機会を捕まえてこの話をちょっとちゅう出していただくということが大事だと思う。今後は是非そのようにやっていただければありがたい。

教育長

時間をかけてる間に改修時期がやって来る。いつまで補助を受けられるかも不透明で気がかりだ。両校とも大規模改修すると決めてしまうのなら、じっくり進めてもいいかなと思えるが、そうでなければ、やっぱり一貫校にすると決まった時に、費やした時間とお金、効率の問題とか補助金の問題が出てきてしまうことが気にかかる。

村長

大規模建築は金がなければなかなかできないが、背に腹は代えられない。教育は総合的に考えないといけないと思う。

以上